

診断京都

一般社団法人 京都府中小企業診断協会

No.121
2018年 春号



平成30年度のスタートに向けて

～ Change (変化) Challenge (挑戦) Contribution (貢献) ～

日ごろは一般社団法人京都府中小企業診断協会（京都協会）の活動にご理解とご高配を賜りありがとうございます。速報値ではありますが、平成29年度も社会貢献積立を継続できる見通しです。会員各位並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



さて、平成30年度をスタートするにあたり、昨年をざっくりと振り返りながら、今年度の主な取り組み方針についてお伝えします。

(1) 平成29年度を振り返って

- 04月：経営や創業、経営力向上計画などを支援するバリューアップサポート事業や地域の課題解決を目指す地域力ビジネスの支援、窓口相談、いわゆる「ものづくり補助金」の書面審査など例年と変わらないスタートを切りました。
- 05月：経営力向上セミナーを金融機関と共催で実施しました。
- 06月：宇治田原町及び近隣地区における観光業、茶業関連などの動向調査の取りまとめを受託し、12月に完了しました。同町商工会様のホームページで紹介されています。
- 08月：ものづくり補助金採択企業の成果事例発表会と事例集作成を行いました。
- 10月：恒例のシンポジウムを「京都はベンチャー企業のメッカになるか？～ベンチャービジネスにチャレンジして成功した企業の物語～」をテーマに実施しました。
- 11月：診断士の日のイベントをマイドーム大阪で、診断士のトリセツをテーマに、近畿ブロック共催で実施しました。京都協会石井会員による事例発表も行われました。恒例の厚生事業で大本山相国寺等への訪問と懇親昼食会を実施しました。
- 12月：現在建設中の京都経済センター（仮称）への入居が内定しました。
- 01月：特別研修と新年祝賀会を開催しました。特

別研修では、JETRO 京都の石原所長から、JETRO 京都の活動と京都企業の海外展開事例をご紹介いただきました。

02月：会員交流会を実施しました。

実務補習（旧3次実習）5日間コースを実施しました。

コンサルティング能力向上研究会（愛称：プロコン研究会）も立ち上がりました。

理論政策更新研修や各種研究会、受託事業、診断京都の発行、ホームページでの情報発信、診断ニュースの別冊でのプロコン・カレッジと企業内診断士向けの研究会（さんもくかい）の紹介など、諸活動もほぼ例年どおり実施しました。

(2) 平成30年度の運営にあたって

個々の事業については総会に委ねますが、既存の諸事業に加えて、来年（2019年）に向けて様々な準備をして参りたいと思っています。来年、新たに予定されている主な行事等としては、①京都経済センター（仮称）への入居、②京都協会創設60周年記念イベント（仮称）、③近畿ブロック会議（連合会本部と近畿7府県協会の情報交換会等）、④診断士の日のイベント（京都地区での開催）、⑤京都協会と組合（診断士会）の統合準備及び関連規定の見直しなどがあります。いずれもプロジェクトチームを立ち上げ、進めて参ります。

スポーツ選手が次の試合に向けて「よい結果を得られるように、よい準備をして」と述べておられるのをよく耳にします。京都協会も、次年度、さらには次の60年、100年に向けて、しっかり「よい準備」をしていきたいと思ひます。

本年度も「Change (変化)・Challenge (挑戦)・Contribution (貢献)」の理念の下、診断力、コンサルティング能力の向上に努めながら、人手不足、事業承継、IT活用、経済連携協定など国内外の情勢、動向に目を配りながら、経営の診断及び経営に関する助言と京都協会の基盤強化に取り組んで参ります。一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

(山脇 康彦)

京の起業家

京都商工会議所よりご紹介をいただき、京都で「株式会社テクサー」を平成28年10月に起業された代表取締役社長の朱強（しゅきょう）様、取締役CTOの今井正治（いまいまさ）様にお話を伺いました。



朱社長と今井CTO

■お2人が事業を始めるに至った経緯は何でしょうか？
朱氏) 私は中国の出身で、日本に留学して大阪大学で半導体設計について研究していました。その時の恩師が今井先生です。以来、私は奈良先端科学技術大学院大学、富士通研究所、ケイデンス・デザイン・システムズ社と一貫して半導体関連の研究職についていましたが、かねてより起業したいとの思いがあったこともあり、自身の専門であるソフトウェア設計を強みとして活用でき、かつ、将来期待できる市場規模が大きいIoT (Internet of Things) 分野での起業を決意しました。
今井氏) 私は平成28年3月に大阪大学を定年退職したタイミングであったため、朱さんと一緒に事業を立ち上げることにしました。

■事業の概要について教えてください。

朱氏) IoTに関する様々なサービスの提供です。IoTの構成要素は3つに集約できます。①センサーエッジ（クラウドサービスの端末に相当するもの）、②ネットワーク、③AI等によるデータ解析です。これらの領域に関して、我々の専門であるソフトウェア技術や海外で先端的な機器を開発しているベンチャー企業等とのパートナーシップにより、独自性の高いサービスを提供しています。

例えば平成29年には、京都三条会商店街様向けのショッピング・ナビゲーション・システムとして、「iLoca（イロカ）」というスマホアプリを提供しました。これは、お客様の物理的な位置を測定し、それにもとづいてお客様に商店街や商品の情報を多言語（日・英・中）で提供したり、クーポンを発行する機能を持っています。また同時に、展示会来場者の各ブースへの訪問履歴や動線を収集してデータ解析する「展示会データ解析システムEXAS（エクサス）」もリリースしました。

また、低消費電力で長距離通信を実現できるZETA（ゼタ）というLPWA（Low Power Wide Area）IoTに適した通信ネットワークの規格があります。平成29年12月にはZETAの日本での技適（設計工事認証）を取得し、着実に事業化を進めています。

ZETAの特徴は基地局と中継器を組み合わせてメッシュ状のネットワークを構成できる点です。これによって、障害物が多い市街地でも少ない台数の基地局で広い範囲をカバーできます。LPWAの競合規格であるSigfoxやLoRaWANなどには中継器という概念が無く、ZETAはこれらの規格と比べて技術的・コスト的な優位性を持っています。基地局や中継器の通信距離も市街地なら1~2km、見通しが良いところでは10km程度と広域をカバーできます。中継器は電池で5年~10年程度稼働させられるので、設置場所の選択肢が多いというメリットもあります。中継器の価格は基地局の価格よりも一桁以上安価なので、ZETAを用いることにより、IoT用の大規模な通信ネットワークを低い導入コストで構築でき、運用コストも低く抑えることが可能になります。

ZETAの応用は、高齢者や児童・生徒の見守り、空き家管理、違法駐車監視、災害時の情報提供など広い範囲に及びます。例えば、九州のある山間部では、ZETAをチョウザメの養殖場管理のための水温・水位等のデータ収集・蓄積に応用する実証実験を開始しています。また現在、スマート・ソサイエティを実現するための様々な実証実験の準備を行っているところです。

■今後の課題は何でしょうか？

朱氏) IoT用の通信ネットワークのインフラ事業を進め

京の起業家① 株式会社テクサー

るには、当社の資金面、体制面での規模が小さすぎることです。そのため、当社は、当社の強みを活用したい大手の企業様とWIN-WINのパートナーシップを締結しています。今後、実績を積み重ね、さらに認知度を向上させたいと考えています。

■商工会議所からはどのような支援を受けましたか？

朱氏) 起業当初からいろいろなアドバイスをいただいて来ました。最近では、平成29年12月に、前述した「iLoca（イロカ）」の正式運用開始とクリスマスイベントの開催にあたり、プレスリリース実施のご支援をいただきました。



「iLoca」の画面

今井氏) 記事はまず京都新聞に掲載され、その波及効果で全国紙（日刊工業新聞、産経新聞、日経新聞）にも取り上げていただき、これらの記事がYahoo! NEWSにも載りました。特に日経新聞は全国版の夕刊の1面で、某S社の大型ロボットの記事の隣に掲載していただきました（笑）。新聞記事を見た投資ファンドや銀行などからもお声がかかり、ビジネス・マッチング等にもつながったため、非常にありがたかったです。

■会社組織の概要を教えてください。

朱氏) 当初資本金300万円、私と今井先生の2名体制で始め、現在は8名体制です。最初に京都市スタートアップ支援ファンド（京都市、フューチャーベンチャーキャピタル、中信、京信等による）に出資いただいてから、様々な金融機関からの融資やファンドの出資を受けることができました。KRPには平成29年8月から入居しています。

■中長期のビジョンはどのようなものですか？

朱氏) ZETAの機器は機能面での完成度は高いですが改良の余地もあり、日本のメーカーと組んで小型化などに取り組めます。当面は日本での事業拡大に注力しますが、将来的にはアジア、ヨーロッパ、アメリカと海外に展開することも視野に入れていきます。ZETAは世界水準でも高い技術的優位性があると確信しています。

また、今後の事業化に向けて、IoTの端末にディープラーニング技術を使ったAIのエンジンを搭載して音などの情報を解析してからクラウド上のサーバに送信する「スマート・センサエッジ・システム」の研究開発を行っています。この技術は、たとえばエンジン音からの異常検知や故障予知、医療やヘルスケアなど、幅広い応用分野を持っています。IoT技術を応用した様々なサービスを提供することによって、安全、安心、便利で快適なスマート・ソサイエティの実現に貢献し、いずれは株式上場も実現したいと考えています。（取材 松下 晶）

【京都商工会議所 経営支援員 梅影氏より】

本所が開催した「創業全力応援フォーラム」に参加されていた今井取締役様、交流会でお声掛けしたのが支援のきっかけです。当初から経営面や技術面がすぐに自走できるほど確立されていたのが印象的です。生産性向上や災害時対応などの社会課題の解決に資する事業を推進されており、近い将来IoTを強力に推進するキープレイヤーに成長されると確信しています。今後も同社の将来ビジョンに則した支援で関わらせていただきたいと思います。

【会社情報】

■株式会社テクサー (Techsor Inc.) <http://techsor.co.jp>
（京都本社）〒600-8815
京都市下京区中堂寺栗田町93 KRP 4号館 5階 S-05
（東京支社）〒105-0013
東京都港区浜松町2丁目7-13 浜松町パークビル5階
（お問い合わせ先）
Mail : info@techsor.co.jp、Tel : 075-754-7337

多様な生き方働き方と経営 ①

京都市ソーシャルイノベーション研究所 (SILK) の秋葉芳江です。昨年秋号 (119号) にも誌上で目にかかりました。



昨年度の「イノベーション・キュレーターへの道」連載に続き、今年度は「多様な生き方働き方と経営」連載をお届けします。初回の今回は、SILKが推進すること、基本的な考え方をご紹介します。

§ SILKが進めるイノベーション

SILKの役割は、持続可能な社会の構築に貢献する「サステナブルカンパニー」をサポートし、ソーシャル・イノベーション創出を後押しすることです。働き方の文脈で言えば、OECD加盟35か国中20位という日本の労働生産性は皆様ご周知のとおりで、人手不足、人口減少、過労死など課題には事欠きません。SILKでは、生き方と働き方を切り離して考えることは適切ではない、と考えています。誰かにしわ寄せがいたり搾取したりする構造は、本質的に持続可能ではないからです。SILKではこれまでも同分野は力を入れてきており、ここでは3つご紹介いたします。

「ここから生まれるイノベーションセッション」を連続開催し第6回に至っています。取り上げてきたテーマは、子育てする親の味方、障害や働きづらさを抱えた人々の就労、子連れ出勤という就業スタイル、100年人生戦略。2つ目はWebにおいて、生き方と働き方を切り離さず自分らしく生き活きと働くすてきな方を毎月ご紹介 (現在13人目)。3つ目は、こうした価値軸で経営する「これからの1000年を紡ぐ企業認定」で認定された企業の求人支援を東京で開催し、京都移住と転職をセットで人材確保を実現してきました (京都市、京都移住計画と共催)。生き方と働き方を切り離さずに自分らしく生きていきたいと主体的に選択する人々が、いま京都を目指して来てくださっています。

§ 生き方と働き方を合わせる

仕事だから仕方がない、今までそうだったから当たり前、という言葉の前で、経営者自身も含めて働く一人一人の人生と生きがいを色褪せたものにして

いないでしょうか。特定スタイル (例: 週5日、1日8時間+多くの残業、育児なし・介護なし・病気なし) に耐えられる人だけが働くことができ、それ以外のスタイルでは働きづらい一方で、仕事はつらいモノ、長時間働くのが仕事——これではパフォーマンスが上がっていかないと、誰もがうなずくでしょう。働く一人一人が、自分を活かしたスタイルでわくわくしながら仕事に取り組めるとしたら、どんなにすてきで、どんなにパフォーマンスが上がることでしょう。

テクノロジーが進化し、AI実用化はすでに始まり、自動運転実用化も秒読みです。テクノロジーに仕事を奪われると怯えるより、人間は人間だからこそできる仕事にシフトできる大きなチャンスが訪れていると私は思っています。Teleworkやサテライトオフィスなど、時間と場所に縛られない働き方ができる時代が到来しています。単一組織に100%帰属し“定年”まで働く形態も昔話になりそうです。いま、私達は、ひとりひとりの生き方を投影した、本来的な意味の「働く」を手にする百数十年ぶりの好機にいるように思えます。そのような時代には、ワークライフバランスを超えて、生き方と働き方を合わせる (work as life) という発想が、力を与えてくれます。

§ 経営者と共に

経営者、特に創業者やオーナー経営者は、事業を大きくすることが自分自身の夢と重なり、働き過ぎも苦にならないかもしれません。けれど、一緒にやっている従業員、取引先はいかがでしょうか。『時間』は、個人にとっても事業体 (法人) にとっても極めて貴重で重要な経営資源ですから、限られた時間でいかにパフォーマンスをあげるかが、これからの経営にとって肝になりましょう。業種業態によって差異もありますが、企業にとっては、タイムマネジメントから、モチベーションを確保したパフォーマンスのマネジメントにシフトしていくのではないのでしょうか。

平成30年度、SILKでは京都市とともに、多様な生き方働き方実現に向け、中小企業への働きかけに力を入れて参ります。皆様方と共に、働き方と経営にイノベーションを!



SILK Webサイト

(京都市ソーシャルイノベーション研究所
イノベーション・キュレーター 秋葉芳江)

今回から診断京都で4回の連載を担当します石井規雄です。皆様、どうぞよろしくお願い致します。私は、昨年11月に開催された「平成29年度中小企業経営診断シンポジウム」の経営革新支援事例に関する論文発表で日本経営診断学会会長賞を受賞しました。その時の論文テーマがタイトルにもなっている「社会価値創出と持続可能な経営モデルへの変革」です。今回は、このテーマにそって4回に渡って連載を行いたいと思います。



・社会的課題への対応が求められる背景

近年、持続可能な社会の実現に向けた企業の役割が問われています。ISO26000の発行や国連での持続可能な開発目標 (SDGs) の採択、COP21でのパリ協定の採択等、世界中が社会的課題の解決に向けて動いており、欧米ではサステナビリティ (持続可能性) 重視の戦略を取っている企業が増えています。

その中でも、「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、企業を社会的課題の解決に向けた重要なステークホルダーとして捉えており、これまで以上に社会に対する企業の役割が求められるようになりました。SDGsとは、2015年9月に国連の持続可能な開発サミットにおいて採択された2030年までの新たな目標です。主に発展途上国の社会的課題の解決を目指したミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、対象を先進国も含めた全世界としています。世界中のあらゆる社会的課題の解決を目指し、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標として、17の目標と169のターゲットに具体的な達成基準を盛り込んだものです。2030年に向けて世界的な優先課題とあるべ

き姿を示したものとと言えます。

日本国内では、2016年5月に政府にSDGs推進本部を設置されて以降、政府や地方公共団体、民間の企業やNPO等の様々なセクターで、SDGsの達成に向けた動きが進められています。

SDGsが企業にとってなぜ重要かという、社会的課題は企業にとって新たな事業機会となり、今後の企業の成長の源泉となり得るからです。社会的課題を17の目標と169のターゲットに具体化されているSDGsは、企業としての行動指針と言い換えることもできるでしょう。

経団連会員企業や企業市民協議会 (CBCC) 会員企業を対象とした「CSR実態調査」によると、約4割の企業がSDGsに既に対応または近く対応予定と回答しています。大企業ではSDGsの達成に向けた取り組みがスタンダードになりつつあります。一方、一般生活者を対象としたJXTGホールディングスによる「社会や自身の変化に求めることに関する意識調査」では、85.0%がSDGsについて聞いたことが無いと回答しており、一般生活者のSDGsに対する認知度はまだ低いと言えます。しかし、「企業も主体となって社会的責任を担う活動を推進すべき」という質問では79.3%が「はい」と回答し、「社会的責任を担う活動は企業価値を上げる」という質問では76%が「はい」と回答するなど、社会的責任を担う企業活動は、多くの人が評価するとしています。また、オルタナSによる、1980年以降に生まれた「ミレニアル世代」を対象とした価値観調査では、従業員に優しい環境、地域社会や環境への配慮等をこれからの企業のあり方として求める傾向が強いという調査結果が出ています。これらの調査結果からも、企業が社会的課題に対応していくことは、必要不可欠だと言えます。

これまで、社会的課題への対応が求められる背景として、SDGsの紹介や国内外の動き、アンケート調査結果等をご紹介しました。企業が社会的課題への対応が必要なことは理解していただけたかと思いますが、これは大企業のような資金力に余裕のある企業がすべきことで、中小企業で取り組むのは難しいのではないかという意見もあります。私は、中小企業だからこそ、社会的課題への対応をこれからの企業成長の柱に据えるべきだと考えます。なぜ中小企業が社会的課題の解決に取り組むべきなのかについては、次号で詳しく説明したいと思います。

(石井 規雄)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



持続可能な開発目標 (SDGs)

平成30年の 新年祝賀会開催

平成30年の新年祝賀会が1月12日（金）、新都ホテルで開催されました。祝賀会に先立って実施された特別研修会では、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）京都貿易情報センター所長の石原賢一様を講師にお迎えし、「京都企業の海外展開事例をジェトロ京都の活動」というテーマでご講演を頂きました。JETRO京都貿易情報センターでの活動実績や海外で展開されているブリーフィングなどにJETROで



実施されている各種サービスについて詳しく披露して頂きました。

特別研修の後、同ホテル内のホール、八坂の間で多数の御来賓をお迎えし、会員とともに祝賀会を開催しました。懇親会には10名の来賓にもご参加頂き盛大な宴となりました。山協会長の挨拶に続き、3名のご来賓よりご祝辞を頂戴した後、乾杯を行い、懇親会に移りました。会場では、おのおのが日ごろの活動に対するご協力へのお礼をはじめ、公私にわたり、幅広い分野で歓談に花を咲かせ和やかな集まりとなりました。（賀長 哲也）



京都府中小企業診断協会 第3回更新研修報告

去る2月25日（日）に京都駅前のメルパルク京都6階に於いて、今年度3回目となる更新研修が行われました。

第1講目は、近畿財務局京都財務事務所長 樽川様をお迎えして、「わが国の財政の現状と課題」、「京都府経済の特徴」等について大局的にお話しいただきました。具体的には、前半部分で平成29年度一般会計予算、歳出構造の変化、社会保障給付の増と制度の持続可能性について分かりやすく言及されました。後半部分では京都府経済の特徴として、産業構造、商業の業態比率、金融機関の構成などの特徴を展開されました。受講生からの質問では、「国の資産と負債（借金）のバランスは、本当はどうなっているのか？」というとても重要な内容の質問もさ

れ、樽川所長は、分かりやすく回答をされていました。

第2講目は、京都協会会員の石井規雄様より、「社会価値創出と持続可能な経営モデルへの変革」と題して、自らの支援活動を通じての内容が話されました。

前半部分では、顧客や社会の課題解決による価値創出は、企業価値向上に貢献し、その仕組みの説明がされ、また企業の存在意義を今一度考えていくことで、中小企業が持続可能な経営モデルのあり方を具体的に進められました。後半部分では事例紹介として、萱草^{かやぶき}関連の企業紹介があり、社会に必要とされる企業に成長するための課題、方向性について熱心に説明されていました。今年度も8月、10月、2月に開催予定ですので、積極的な受講をお待ちしております。（藤井 明登）



第5回 京都プロコンカレッジ発表会

平成30年1月27日、第5回京都プロコンカレッジの発表会を開催しました。本カレッジは毎年6月に開講し8月までは、プロコンとして独立する為の診断・コンサルティングスキルや営業方法などの講義を全5日間（合計30時間）行います。その後、9月から12月までの4か月間で、実際に企業訪問し経営課題解決の為のコンサルティングを行います。昨年度は、金属加工業の生産性向上（不良率の低減、原価管理の適切化指導など）と、営業力強化（タイムリーな見積作成



と提出など）、伝統工芸企業の伝統工芸技術・技能を活用した新規ビジネスモデル構築指導の3件のコンサルティングを行いました。前者2つは業務改善コンサルで、いかに業務改善の為の情報を収集し企業のレベルにあった解決策を提言・指導する事がポイントになります。一方後者は、計画作成コンサルになり、経営者の頭の中にある情報やアイディを整理整頓して、フレームワーク等を使いビジネスモデルとしてまとめ上げる事がポイントとなります。今回受講生の方は、初めてこのようなコンサルティングを経験され、戸惑う事もありましたが、自身の力を最大限出して精一杯取り組まれました。時間の関係で最終的な成果がでるまでは至りませんでした。今後の診断・コンサルティングの大きな糧になったと思います。本カレッジは今年度も開催予定ですので、診断・コンサルスキルの向上やプロコンを目指す方は、ぜひご参加ください。（坂田 岳史）

はんなり診断士



河邊 星太郎
(かわべ せいitarou)

わらべ経営事務所

わらべ経営事務所の河邊星太郎と申します。事務所は伏見稲荷大社のすぐそば、徒歩2分の所です。診断士登録は平成22年になります。

独立前は、京都中小企業家同友会という経営者団体に18年間おりました。経営課題にまつわる実に様々な業務に従事しましたが、何が実績でノウハウがあるのだと言われると、経営指針と事業承継、求人採用・社員教育になるかと思えます。特に、経営指針（経営理念・経営戦略・経営計画）の策定とそのフォローについては18年間、何百社の企業に関わってきました。

独立後は、企業から直接お仕事を頂く機会にも恵まれたこともあり、随分ぼーっとしていたのですが、自己流の限界やこのままでは経営コンサルタン

トではなく便利使い屋になるとの危機感を覚え、昨年の6月に京都協会に入会しました。

入会して即プロコンカレッジを受講（1日協会入会で3日に開講）。これが協会ファーストインプレッションでしたので、ともかく衝撃を受けました。冒頭で「プロコンの覚悟はあるのか！」「専門分野はなんだ！」「絶対的な強みがあるのか！」と迫られタジタジに、頭が真っ白になったのをよく覚えています。実に多くの事を教えてもらいましたが、感想を一言で言えば、自分は「志が低すぎた」です。多くの事は言い訳に過ぎず、高い志を持ちそこに向かって、いかに「いま」努力しているか、情熱を持って「行動」しているかだと。

京都協会に入会しての夢？と言えば、「診断士道」を極めたいと。（この言葉を教えてもらった）。僕はあこがれて診断士になりましたし、診断士ですと自己紹介して「診断士か！それはすごい、是非とも指導をお願いしたい！」と言われたい。頑張って協会に参加、活動していきたいと思えます。

趣味は、プロレス（見るだけ）、音楽鑑賞（ファンクやロック）、カラオケ、食べ歩き（ラーメン・焼き鳥）、ねこ、メダカ・クワガタ飼育です。同好の士がいらっしゃったら是非お声かけ下さい。



支援機関の診断士たち⑧



谷口 真
(たにくち まこと)

京都商工会議所 勤務
(会員部 人材開発センター
研修担当 兼 経営支援員)

京都商工会議所の谷口です。診断士登録は、産業振興部時代の平成20年秋に行い、間もなく10年になります。この間、知恵産業推進室時代には、「知恵の経営」セミナーを知恵経営支援研究会の先生方と立ち上げさせていただき、経営革新塾や知恵ビジネスプランコンテスト、個別支援などでも数多くの先生方にお世話になってきました。前号の多田さんには、知恵ビジネス創出塾や新連携支援をはじめ、会員部に異動してから専門家派遣などで大変お世話になっております。多田さんと並んでもうお一方「支援機関の診断士」として忘れることができない恩人が商工会連合会にいらっしゃった故藤原茂寿先生です。藤原先生には、「知恵の経営」推進事業や中小企業支援ネットワーク強化事業などで、数々の

ご指導をいただきました。

さて、京商の事業については、2017年夏号で牧田支援員からいろいろと説明させていただきましたので、私からは京商ビジネススクールという研修事業についてご紹介させていただきます。京商ビジネススクールは、優れた講師陣による多様なセミナーや講座を開催し、知恵を活かすことのできる“自律人材”の育成をサポートしております。定期公開セミナーでは、評価の高い講師やニーズに沿ったテーマを厳選し、ビジネスの場面で必要となる職務遂行能力を養う研修を年間約100本開催しております。また、オーダーメイド（企業内）研修では、各企業の人材育成方針に合わせて最適な研修プログラムを企画・提供するほか、講演会や式典などへの講師派遣も年間約100本行っております。京都協会の先生方には、相談に乗っていただいたり、出講いただくなど、心強い支援をいただいております。困った時に頼りにさせていただける仲間がいるのは本当に頼もしい限りです。今後も先生方にはご指導・ご協力の程お願い申し上げます。

今回は、京都府事業引継ぎ支援センター統括責任者で協会常任理事の成岡秀夫先生にお願いします！

プロコンカレッジ

ビフォーアフター ①



神戸 壮太

(かんべ そうた)

2013年6月に開講したプロコンカレッジ一期卒業生になります。2011年に中小企業診断士登録し、既に経営コンサルタントとして活動を行っていましたが、改めて自分自身の考え方を整理し、講義や演習だけでなく、

講師の指導のもと、実

際の企業コンサルティングを行う実践を通じて京都府中小企業診断協会の経験豊富な講師の知見とノウハウを吸収しようと参加しました。

講師の皆様方からは「プロのコンサルタントとしてどのように振る舞うべきか」という心構え、事業者様の課題をどのように抽出し、解決していくかという考え方や知識、フレームワークだけでなく、実際に「どのようにお仕事を頂戴するか」等、日常の疑問点や悩み事等、普段はなかなか聞けないことを「講師と受講生」という立場として講義や実践を通

じて学ぶことが出来ました。

また、卒業後は二期生以降の受講生の皆様に講師として逆に「教える立場」となって皆様に知識やノウハウをお伝えする機会も頂いております。

「プロコンカレッジを受講して終わり」だけでなく、これらを振り返ることで日常のコンサルティング業務を通じた考え方を整理するとともに、講師としては考え方を伝えることで、京都プロコンカレッジの講師の皆様方、他の受講生の「志を同じくする先輩や仲間」との公私に渡る交流を行うことでコンサルタントとしての自己研鑽に繋がっていると確信しています。

現在は京都府内を中心に全国の中小企業・小規模事業者様の経営戦略やマーケティング戦略中心に、1つ1つの事業者様のお悩みや課題に真摯に対応し、伴走しながら課題解決を行っております。診断スキルの向上だけでなく、事業者様の心に向き合い、真の課題解決に繋げていく経営コンサルタントとしての知識や考え方を学ぶ素晴らしい機会であったと思います。

プロコンカレッジ

ビフォーアフター ②



鬼頭 靖彦

(きとう やすひこ)

私は三期プロコンカレッジの卒業生になります。入塾当時は既に独立を決め、「プロとして今後どうやっていこうかな」と悩んでいたところでした。知識の整理や人脈作りなどは思いつくものの、どこからどうやって始めたらいいか考えていた

頃だったかと思います。……そんな時「プロコンカレッジ」の募集があり、応募しました。プロコンとして稼ぐ方法を講義、実習の両面で学べること、以前受講した二期生からの勧めなどもあり参加しました。

プロコンカレッジではプロコンとしての「心構え」や「プレゼン方法」、「人脈づくり」など、幅広く学びます。講師陣は皆さん、第一線で活躍されている方々です。その方々が実際の体験を通して得たノウハウを直接聞けることは非常に価値がありまし

た。講義や実習の中で、あらためて現状の自分に向き合う機会にもなり、甘さや自分に足りないものに気づかされました。同時に課題も明らかになり、新たに補う気持ちにさせてくれました。講義ではよいコンサルタントの資質として「専門分野の知識や経験からのノウハウをもつ努力」や「コミュニケーション力」「分析力」などの重要性を伝えられます。こうした資質は現在でも日々の振り返りの指針になっている気がします。また、卒業後の人脈づくりは悩みの1つでしたが、講師の方から紹介をうけるなど現在の仕事につなげることができています。人脈の点では同期との関係性も良好で、勉強会に参加するなど卒業後の交流も盛んです。特に「wiki研究会」は同期が中心になって立ち上げた研究会で、ITスキルの向上を目的にしたものです。ITに苦手意識が強かったのですが、同期のおかげでハードルが低くなった気がして感謝しています。

卒業時、講師の先生から「今後は講師と受講生の関係でなく同じプロコンとして研鑽しあいましょう」と言葉をかけられました。プロコンカレッジで学んだことを実践し精進していけたらと思います。

各士業等のマッチング交流会開催

平成30年1月16日(火)に京都ホテルオークラにて、京都府内の弁護士会や税理士会等の士業14団体が一同に集まる「新春!! 各士業等のマッチング交流会」が開催されました。登録経験年数の少ない各士業の会員を含めた士業同士が交流して人脈を作り、今後の業務に役立てていただくことを目的に、京都弁護士会を中心に、各士業団体の関係者が数回の企画会議を重ねて準備を進めてきました。

このような企画の開催ははじめてでしたが、総勢248名の参加者にお集まりいただき、大変盛り上がった会となりました。診断協会からは12名の参加でした。普段、あまり接点のない他士業の方々との交流は新鮮であり、また他士業の方々も中小企業診断士



との連携を深めていきたいと考えておられる人が多かったのが印象的でした。

診断協会からは、石井が企画会議に出席し、当日は運営や福引き大会の司会を担当させていただきました。福引き大会の司会進行では、多方面からお褒めの言葉をいただき、大役の勤めを果たすことができて、ほっとしています。

今回、私は京都弁護士会の若手準備会のメンバーの中に加えてもらい、企画準備段階から数回に渡って交流を深めることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。参加者からは、来年度以降の開催を熱望するお声も多数いただきましたので、今後他士業団体とも協議を重ねて、来年度開催の準備を進めていく予定です。来年度の交流会に企画段階から関わっていきたいという方がいらっしゃいましたら、是非とも石井までお声掛けいただければと思います。(石井 規雄)



研究会活動の紹介

研究会名	概要	メンバー	開催頻度	リーダー
経営革新支援研究会	診断士の自己研鑽、相互研鑽を目的に、毎月講師によるセミナー形式で開催。懇親会も同時開催。	随時	毎月 第2水曜日	賀長哲也
人材開発研究会	中小企業におけるヒトに関する様々な課題を踏まえた研究と提言。	10名	毎月	藤村正弘
ウィキ京都研究会	最新の情報通信技術(ICT)による顧客価値の最大化に向けたディスカッション。	13名	奇数月 第2木曜日	坂田岳史
プレゼンスキルアップ研究会	必要な話し方や伝え方、説明・説得能力の向上を診断士同士互いに研鑽。書籍を読みその本の紹介を行うビブリオバトルや、起業家の方々のプレゼンを受ける活動も。	8名	毎月	中西昭人
事業承継支援研究会	事業承継支援のためスキル向上と、セミナーや個別支援を目指して活動。会計士協会京滋会との共同研究も実施。	19名	年9回程度	岡原慶高
会員交流勉強会 さんもく会	会員の交流及び診断スキルアップを目的に、毎月発表者をかえて意見交換。	13名	毎月 第3木曜日	橋本浩司
知恵経営支援研究会	京都府の中小企業支援機関が進める「知恵の経営報告書」作成支援活動、及びそのためのスキルアップ活動と、経営に貢献する知的資産経営の研究。	7名	毎月	今井俊和

編集後記

協会の平成30年度が始まりました。本誌「診断京都」では編集担当として新たに松下晶さんを迎えました。

松下さんは京町屋イベントスペースオーナーやソーシャルビジネス支援など多方面でご活躍中で、新たな視点を持つての編集活動に期待しています。

冒頭の山協会長のご挨拶にあるように、来年は京都診断協会60周年となります。本誌でも60周年にむけての企画を考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(杉村麻記子)

京都診断協会の行事予定

5月26日(土) 通常総会

8月4日(土) 第1回理論政策更新研修

診断京都

No. 121

2018年4月発行

一般社団法人京都府中小企業診断協会

〒600-8431 京都市下京区綾小路通室町西入善長寺町

143番地 マスギビル502号室

TEL (075) 353-5381

FAX (075) 353-7540

メールアドレス info@shindan-kyoto.com

ホームページ <http://www.shindan-kyoto.com/>

印刷所 株大気堂 TEL (075) 361-2321

FAX (075) 361-5047